

中国四川省における幼児教育の現状に関する一考察

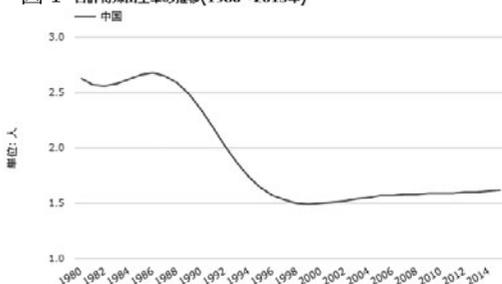
五十嵐 紗織

キーワード：幼児教育・保育・中国・多文化保育

1. 緒論

中華人民共和国（以下中国）は、13億5千万人以上の人口を抱え、GDPも日本を抜いて世界第2位に躍り出たことは周知の事実である。今や、世界経済の中での存在感をますます強くしている。改革開放政策が始動した1979年に始まった一人っ子政策により、中国は人口の抑制という目標に成功した。一人っ子政策以降、中国の合計特殊出生率は徐々に低下し、1980年に2.63人だったものが、2014年には1.61人にまで下がった（図1）。

図1 合計特殊出生率の推移(1980～2015年)



しかし、その結果中国は、人口に対する年少者の割合が減少し、2002年には高齢人口が7.1%になり、65歳以上の人口が全人口の7%を超える“高齢化社会”へと突入することとなった。中国の場合は一人っ子政策というきっかけがあったものの、欧米各国や日本も同様に、合計特殊出生率の低下と高齢化の問題を抱えている。中国もまた、この問題に迫りついたということもできよう。

一人っ子政策の開始以降に誕生した最初の子どもたちは、すでに30代に到達している。すなわち、一人っ子政策の中で生まれ育った世代が、結婚して家庭を築き、親となる世代に差し掛かっているのである。このことが、少ない子

どもに手と金をかけ、自分自身が受けてきた教育以上の教育を自分の子どもたちに受けさせたいという教育の競争化を助長させる一つの要因といえる。また、一人っ子政策以前の文化大革命下で成長した世代にとってみれば、統制や規制のない現代の子どもたちに自分たちができなかった経験をさせたいという思いもあり、親だけでなく祖父母の期待をも一身に現代の子どもたちが背負うこととなっている。日本の子どもたちは6つのポケットを持っている（両親・父方の祖父母・母方の祖父母）ともいわれるが、中国の子どもも同様に「四二一総合症」と呼ばれる現象も多くなり、1人の子どもに両親と4人の祖父母からの過剰な期待や経済的な支援も増加しているとみられる。一人っ子政策に伴う少子化によって、少ない子どもへの愛情が集中的に注がれるとともに、経済発展の中で教育もまた経済活動の一部となって早期教育に対する過熱ぶりに拍車をかけていると思われる。

中国には、これまであまり幼児教育が重視されてこなかったという背景があり、中国独自の幼児教育のありようが十分に成熟しているとはいえないといわれる。理由としては、西洋（先進国）の後追いばかりの研究がなされてきたことがあり、「西洋の理論を発展させて、中国に適応するような幼児教育の理論体系を確立することができておらず」、幼児教育研究が十分でなく、「独自の理論体系と実践特色を有していない」とも指摘されている¹。曹と無藤が指摘するように、経済的に急成長を遂げた中国では、幼児教育の在り方は未だ模索中にあるとみられる。中国の幼児教育の理論と実践の研究を加速させ、中国の幼児教育の発展に適合する理論を確立する必要がある。また、その意味では、中国と同様に西洋からの輸入と独自の理論の双方を展開し統合する努力を迫られている諸外国に学ぶこともあるだろう。

2. 事例的検討

本研究では、中国の幼稚園の現場での視察を通じて、中国の幼児教育の実際を明らかにすることを目的とする。歴史的にも深いつながりがありながら、幼

児教育の現状に関する情報が豊富ではない中国の幼稚園の視察を通じて、日本における幼児教育の発展への示唆を得たい。

調査の期間は2017年2月22日から26日。四川省成都市の私立幼稚園の視察及び、懇談会を行った。成都市は、中国の



ほぼ中央部にある四川省に位置し、人口は約8千万人の大都市である。高層マンションが立ち並び、2～3車線ある道路には多くの外国製車が見受けられる。教育改革の中で、市を挙げて質の高い教育を目指しているという。今回の視察では、成都市の中でも学費が高額で、先進的な幼児教育を掲げている、いわば富裕層の家庭を対象とした幼稚園を4園視察した。

事例①：金華果（ゴールドアップル）幼稚園

【園の概況】 園児数は400名で、成都市特級評価の幼稚園である。成都市では幼児教育を含めた教育の質の向上のため、幼稚園を評価して等級を与えている。成都市の中でもとりわけ富裕層の子どもを対象とした幼稚園である。幼稚園の敷地は全て塀で囲まれ、入り口には警備員が常駐しており、幼児の安全に常に気を配っている。

【子どもたちの遊び・活動】 木曜日はスポーツの日として、様々なスポーツを通じて子どもたちが体を動かすように計画されているという。視察は木曜の午前中であったため、3歳以上児はほとんど全て屋外で自由に遊んでいる。例えば、ドッジボールを基にしたような「カモをとる」というゲームをしている。子どもたちが主体的に遊びを展開させており、教師は周りで安全管理をしたり、

審判の役目をしたりする程度である。

また、サッカーに興じる子どもたちには、外国人コーチ（白人系）が寄り添って指導しており、日本の多くの幼児よりもサッカーの技術が高いように見られる。コーチは、サッカーのテクニックを教えながら、ミニゲームのようなことをさせていた。園の関係者によると、近年中国では、国を挙げてサッカーの強化に取り組んでおり、サッカーに対する熱が高まっている。当園では、それを受けて外部講師を招いたサッカーを幼児教育にも取り入れるようになっていくという。国の方針が、子どもたちの生活や遊びに強く影響しているように感じられた。

【環境教育】 園での活動の一部として、環境教育にも力を入れて取り組んでいる。廊下の小さな本棚に、日本でなじみのノンタンシリーズ（中国語版）が飾っており、横にテープと、説明の絵と文が掲示されていた。この意味は、「壊れたら自分たちで直して使う」ことを教えるためだという。物が豊富にある家庭生活を送っている子どもたちにとって、修理すること、大切に使うことを教えるためにこのような掲示をしているとのこと。ちなみに、ノンタンシリーズは、現地の子どもたちにも人気の絵本であると保育者が教えてくれた。

また、アブラナを育てて油にする工程が、ボードにまとめられて園庭の一角に掲示してある。子どもたちが自分たちで調べたり試行錯誤したりしながらアブラナを育て、油にまで精製したその様子が、子どもたちの字と絵で記録されている。農法はあえて古いやり方を踏襲し、農業や文化に興味をもって取り組めるようにしているとのこと。制作されたボードはさながら研究発表のようであり、その内容は小学校での理科教育の様相であった。（写真1）

園庭を取り囲むように道路に沿って植えてある樹木には、全て樹木札が掛けている。ここにも、子どもの手作りのような絵と漢字が描かれている。園の職員によると、植物の名前を知ること、季節を感じることも、また管理や収穫の際に用いる道具も教えるということなどを目的としている。その一帯に植えられていた樹木は、「桃」「梅」「杏」などという果樹であった。どうして実のなる木なのかと

尋ねると、家族へのプレゼントとして、植物への興味関心を育むことを目指しているという。園庭の一角では動物が飼育されており、鳥類やウサギなどの姿が見られた。動物の世話も子どもたちがするというので、世話の仕方が図示されていた（写真2）。

【施設面】 在園児数から考えると、園庭は決して広くはない。園庭は全て人工芝で覆われている。これは、国の方針ということで、土が出ている幼稚園はないという。様々な活動ができるように夏はプール遊びがあり、森林を散策する活動もある。都市部では自然体験活動が少ないので、ジャングルのような遊び場を作って、冒険遊びができるようにしている。

幼稚園とはいっても、日本の保育所のように保育時間は長い。そのため、どの園でも午睡の時間が設けられている。午睡には木のベッドを使っている（写真3）。写真3は2歳児クラスのもので、午睡室として保育室の隣に専用の部屋があった。布団はクリーニング業者に依頼しているので、「日本では親が持ち帰る」と話すと、非常に驚かれた。他の園でも同様に木のベッドが使用されていたが、多くは保育室の片隅に積み重ねておいてあり、使用するときだけ保育室に並べて使うという。4段ほどスタッキングできるようになっていて、大きくはないが子どもが午睡用に使用するには十分な大きさがあった。

保育室は季節や子どもたちが興味を持っているテーマ、教育目標などに合わせて様々な掲示や飾りつけをしている（写真4）。この写真は、海をテーマにした保育室の様子である。当該園では、このような保育室の装飾にもかなり力を入れているように感じられた。モンテッソーリ教具をはじめ、様々なおもちゃが室内にはあるが、棚などに目印のシールをつけたり、かごを置いたりして整然とした印象であった。

【教育方針】 当該園ではモンテッソーリ教育を取り入れている。近年、中国の幼稚園でモンテッソーリ教育を取り入れる園が増えており、いわば「流行っている」状態であるという。少しでも良い教育を早くから我が子に受けさせたいと考えている都市部の保護者にとって、海外の先進的な保育を取り入れている

る幼稚園は魅力的であり、また、幼稚園側もそういった保育者のニーズに応えるという意味合いも少なからず含有されているようである。

【懇談会より】 今日中国では、大学よりも幼稚園の方が大切だという認識があり、保護者も幼稚園に対する期待が大きい。一人っ子政策の流れもあり、一人の子どもにお金をかけても十分な教育を与えたいと考える保護者は多い。その保護者の要望に応えることも、幼稚園として必要なことである。若い保育者を育てていくことも大切にしている。教諭、保育士、英語教育担当の教員等、多くのスタッフが子どもたちに関わっている。質の高い幼児教育のためには、保育者自身の質の向上が重要だと考えている。園長になるにも資格が必要で、毎年研修や試験を受けている。日本の保育者養成の制度にも興味があり、できることならば日本の養成の状況も見たいと興味を持っていた。

また、園長をはじめ中国側の出席者は、「日本の子どものマナーの良さ」に非常に興味を持っており、どのような幼児教育をすれば日本人のように高いマナーを身に付けられるのかをさかんに日本側の保育者に尋ねていた。日本の幼児教育のイメージについて、「施設の良さ」「しつけ」に高評価を抱いているようであった。



写真1



写真2



写真3



写真4

事例②：成都愛楽錦城幼稚園

【園の概況】 高層マンションに挟まれたような場所にあり、事例①の幼稚園よりもさらに園庭が狭い。保育室のすぐそばにマンションの部屋があり、日本の都市部では子どもの声が気になってしまうような作りである。中国では音に寛大な点、「子どもは宝」ということで、幼稚園から出る生活音に関しては寛容であるという。

【安全・健康管理】 子どもの安全や健康に対する意識が非常に高い。門には警備員が常駐し、来訪者全ての体温を自動で計測する温度計が設置されている。サーズやインフルエンザの流行をきっかけに導入したということで、高熱の場合敷地内に立ち入ることができない。玄関ホールには養護教諭がおり、子ども一人一人の健康チェックをしている（写真5）。

【食育】 昨今、中国の幼児教育でも「食育」が非常に重視されている。カロリーコントロールされた食事が用意され、配膳の際には教員が薄いビニールの手袋をしている様子もある。廊下には、食事のイラストと色分け（日本でいう3色食品群のようなもの）があり、その日の献立が栄養面からみてどの区分に当たるのか、ということが子どもの目でみてわかるように掲示されている。併せて、詳細に書かれた献立表も掲示されており、保護者に対しての情報公開が詳らかにされている様子が見て取れた（資料1-①、1-②）。おやつの中にはリングなどの果物が用意されているが、同時に挨拶をして食べるというスタ

イルではなく、食べたいときに食べたい子どもが保育室の横の小さな部屋で食べるという様子も見られた（写真6）。働く保護者が多いので、一日3回の食事と2回のおやつ計5食を幼稚園で提供している。幼稚園の責務として当然という風土があるようであり、とりわけ当該園が珍しいわけではないという。中国の女性は、子どもが2歳ほどになると働くのが当然という文化的思想がある。そのため、夫婦共働きで、祖父母（特に母親方）の厚い手助けを受けて、子育てをしている状況にあるという。様々な事情で祖父母の手を借りることができない場合は、子育てに非常に苦労するという。日本では、保育所が担っている保育の部分と、幼稚園で行われている幼児教育とが融合された形態が、中国の幼稚園であると看取される。



写真5



写真6

事例③：成都愛楽外国語実験園

【園の概況】 保育の時間は概ね8時から18時。それ以外は家庭で過ごすことが当然とされているので、延長保育はない。他の園でも日課は似通っていた（資料2）。今回の訪問先の幼稚園では、暖房の機能はあってもほとんどの保育室で暖房がついていなかった。2月末ということで、日本同様寒さの厳しい時期であるが、通常の保育ではあまり使用しないという。大人も子どもも厚手のダウンやコートを室内でも着たまま過ごしている。風邪予防ということで、常に開いている窓もあり、我々には非常に寒く感じた。和田らの調査によれば、「暖

房はなくても大丈夫」「暖房はない」の合計の割合は中国都市部で 45.5%であり、日本の 18.8%との間に有意差がみられた²。中国では空調への依存度が低く、暖房をあまり使用しないという先行研究同様の生活様式が見られた。

【教育方針】 成都市の中でも早くからモンテッソーリ教育を取り入れており、それが当該幼稚園の特色ともなっている。夏期には海外で教員研修も受けさせたりしているという。写真7は椅子に座って振り付けをしながら歌を歌う様子、写真8は個別の保育計画が廊下に掲示されている様子である。複数の保育者がかかわって保育しているため、各自の目標や活動の様子がすぐに確認できるようにになっているのだと推察される。



写真7



写真8

事例④：蓉鉄花園幼稚園

【園の概況】 現在の園児数は約 370 名。この幼稚園を以外に 3 園の幼稚園を経営して全体で 1800 名ほどの幼児が在籍し、クラス数は 15 クラスになる。職員配置としては、当該園には 20 名の保育士を含め調理職員など計 45 名ほどが働いている。中国の基準として、子ども 30 名につき職員が 3 名必要であるとのこと。

園の方針として、毎日 2 時間の外遊びを実施している。体を丈夫にし、体力をつける目的がある。春（5 月頃）になると、さらに 30 分の日光浴の時間も

取られるという。視察の際にも、午後の外遊びの時間であった（写真9）。この時間帯は全体的な活動であったため、遊具で遊ぶ子どもはいなかったが、園庭には色鮮やかな複合型遊具が設置されていた。（写真10）。



写真9



写真10

3. 考察

今回の視察で訪問した園の共通点を3つ指摘したい。一つ目としては、都市部の富裕層の家庭を対象とした幼稚園は、教育にかける親の熱意と教育費が高いという点である。保護者自身が高学歴で経済的にも余裕がある教育に熱心な親が多く、それが幼児期からの早期教育に拍車をかけているように感じた。一方の幼稚園側も、保護者からの人気そのまま園の経営に直結するという背景を意識してか、大人からみて理想的な幼児教育を追い求めているように見受けられる。食事や休養、保育者との安定的なかかわりといった日本の保育では養護に当たる内容から、習い事の一環のような外国語やスポーツ、バレエといったレッスンまでを一手に担っている印象である。各園が様々な特色を磨き、その中で人気を誇ることで経営も維持できるという現状であろう。そのために園長をはじめとする職員の意欲も高く、我々への質問の多岐に渡り、機会があれば日本の保育の現状を見たいという声も多く聞かれた。また、国際感覚を養うために海外への親子研修も行っているようで、これまではシンガポールやニュージーランドなどへも行ったことがあるという園もあった。日本の治安の良さ、

また帯同させていただいた長野県朝日村の保育所などの自然環境の豊かさなどに触れ、国際交流の場としても日本の幼児教育に興味を持っていた。

2点目としては、職員体制の面である。様々な職員が幼児教育に携わっており、警備員・調理員・掃除担当職員もいる。保育室を見ても、幼稚園教諭と保育士とが混在しており、それぞれに仕事に当たっている。短い滞在時間ではそれぞれの業務内容の差異にまでは接することができなかったが、子ども一人当たりの職員数が多く、どの保育室に数名の保育者がいることが特徴的である。そして、基本的に「何もしない」ように見守っている姿が多く見られた。これは、3点目に指摘する子どもの自主性をはぐくむ幼児教育を目指しているからである。だからといって教師が何もしないわけではない。写真11は、2歳児クラスの様子であるが、突然の多数の訪問者に子どもが緊張してしまったのか、遊んでいたままごとが気に入らなかったのか、「ママー」とぐずり始めてしまった様子である。そんな子どもに優しく寄り添い、声をかけながら気持ちを落ち着かせるようなかわりをしていた。

3点目としては、「子どもの個性を重視する幼児教育」という点である。屋外での活動の際には、ボール遊びや砂場、三輪車など友達同士で遊ぶ姿も多く見られた。一方、室内での活動は、各自の興味関心に応じて、自分のやりたいことに黙々と取り組む姿が多いように見受けられた。モンテッソーリ教育の方針ということもあるが、子どもそれぞれのやりたいことが教育の中心に据えられていることを感じた。モンテッソーリ教具以外にも、中国の地名のカードや歴史上の人物のカードといった、おそらくは教員の手作りだとみられるおもちゃで遊ぶ子どもも見られた。中でも、世界の自動車メーカーのマークを広げ、我々に次々とメーカー名を答えてみせる子どもがおり、「車が好きだから、車屋さんになりたい」と話していた様子が非常に興味深かった（写真12）。子どもたちは突然の我々の訪問に緊張する表情も見せたが、成都市の先進的な幼稚園ということで他園からの視察も時折あり、落ち着いた姿だった。どの子どもも、自分の遊びに集中して遊び込む様子が見て取れた。



写真 11



写真 12

4. 終論

中国四川省成都市の幼稚園での視察を通じて、幼児教育における国際的な人材の育成や多文化保育の在り方について考えてみたい。今回訪れたのは、都市部の富裕層を対象とした幼稚園の視察であったため、運動や芸術、勉学といった教育的内容を幼児期から十分に子どもたちに与えることを目指した保育が行われていた。一人っ子政策の中で「小皇帝」として大切にまた自由に育てられてきた 1980 年代生まれ（80 后）・1990 年代生まれ（90 后）世代は、これまでの中国人の常識とは異なる部分もあるとされ、現代の日本人にかなり近い感覚をもっているといわれる。日本の教育が、早期教育や受験社会を中心として築かれてきた背景と、現在の中国の状況が重なるのも当然のことといえる。一言で簡単に片づけることはできないが、あまりに加熱しすぎる早期教育には、警鐘を鳴らす必要があるだろう。しかしながら、今回視察した幼稚園のような園だけでなく、地方にはまた別の、さらには少数民族を中心とした地域にはまた別の様々な形態の幼児教育が混在しており、一概に中国全体の現状とはいえない。仲田は、「中国の超大都市の中で階層間格差が広がり、それこそ歴然たる『希望格差社会』のよう」だと指摘する³。つまり、希望を持って未来を生き抜く前に、希望すら持てない子どもたちが存在するというのだ。視察先のように、保護者に十分な経済力があれば、それ相応の教育を早期から与えることができる。一方、そうではない家庭は、そのスタートラインにすら

立てず、将来に明るい展望を持つことさえもあきらめなければならない状況だ
というのだ。日本においても「格差社会」という言葉が定着して久しいが、中
国は日本以上の「超格差社会」である。そのことが、子どもたちを超早期教育
へと追い立てていることが示唆された。

とはいえ、否定的な面ばかりではない。視察した幼稚園では、自国の文化へ
の愛着と共に、国際色豊かな教育がなされていた。また、自然活動への造詣も
深く、環境教育を盛んに幼児教育に取り入れようとする姿が多面でみられた。
保育者からも、世界で活躍できる人材の育成を目指し、他国の幼児教育の良い
部分を多く取り入れようとする努力が感じられた。この点は、日本の幼児教育
や保育にも十分に参考になる視点であった。

日本人の集団行動を順守し、秩序ある姿が称賛され、日本の保育の有り様を
学びたいという声が聞かれたが、その反面、没個性、個々のやりたい活動がで
きないといった指摘を受けることもあった。このような機会を通じて、保育と
は何か、子どもの発達に望ましいかわりとは何かといった保育の根幹につい
て考えていくきっかけを与えてくれた。

一方、国や言葉が違ってても、保育の悩みは似通っていと感ずる部分も多くあ
った。午前中に訪問した幼稚園では、子どもたちそれぞれの活動は、とうに始
まっている時間なのだが、登園したばかりの子どもや送迎の保護者を数名見か
けた。母親が少し駆け足で子どもを送ってくる姿だった。登園時間について幼
稚園の職員に尋ねると、指定はあるのだがしばしば家庭の都合で遅めになる子
どももいます、と少し笑みをこぼしながら答えた。日本でも見られるような光
景であり、ほほえましく感じた。

また、懇談会の中で園長に「保育者を採用する際に、何を見ているか」と尋
ねたところ、学校での成績や試験の結果も重要と前置きされたうえで、『笑顔』
『強い精神力』『子どもを愛しているか』を見ると答えられた。中国でも日本同
様、子どもの命を預かるという責任の重さに見合わない給与体系が課題となり、
優秀な保育者の確保に苦勞している現状がある。保育者の不足と、また質の高

い保育者を養成することは、国を超えて共通の課題であることを痛感した瞬間だった。

最後に、四川省成都市の幼児教育機関との交流事業に際した視察団に、中国の幼児教育の実態調査としての帯同を快諾して下さった朝日村村長中村武雄様を始め、関係者各位、加えて現地幼稚園の皆様、通訳、コーディネーターの方々に心より御礼申し上げたい。今回の視察は、中国の保育環境と日本における多文化保育の在り方に興味をもって臨んだが、急遽視察団としての派遣が決まったこともあり、準備が十分とはいえなかった。その分同行させていただいた皆様方から多くのご示唆を賜わることができ、深謝の念に堪えない。本当にありがとうございました。

参考文献

- ・ 山岡テイ (2007), 「違いを認め、大事にしたい 多文化子育て 海外の園生活・幼児教育と日本の現状」, 学習研究社
- ・ 張 育慶 (2013), 中国における保育の現状, 広島大学大学院教育学研究科紀要・第二部, 文化教育開発関連領域 (62), 89-95
- ・ 洪 福財 (2014), 台湾における幼児教育の現状—形式的統合から実質的統合への挑戦—, 保育学研究 52(2), 150-161
- ・ 馮 曉霞 (2007), 中国の大都市における就学前教育及び子育て支援の現状と課題, 保育学研究 45(2), 134-141
- ・ Tokyo Panda (2013), 「< 80 后・90 后 > 中国ネット世代の実態」, 角川新書
- ・ http://ecodb.net/exec/trans_image.php?type=WB&d=TFRTIN&c1=CN
- ・ <http://www.allchinainfo.com/>

引用文献

- ¹ 曹 能秀・無藤 隆 (2006), 中国における幼児教育の現状と課題, お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要 3, 39-44
- ² 和田雅史・鈴木明・高橋進 (2013), 日本と中国の児童のライフスタイルと健康に関する一考察, 聖学院大学論叢第 26 卷 (第 1 号), 229-239
- ³ 仲田陽一 (2014), 「知られざる中国の教育改革—超格差社会の子ども・学校の実像—」, かもがわ出版

【资料 1-①】

一周带量食谱及营

单位：成都爱乐外国语实验幼稚园				一人可食均量：克						
餐名 (用餐时间)	星期一 2月20日			星期二 2月21日			星期三			
	食谱	食物	重量	食谱	食物	重量				
早餐 (8:00)	牛奶	牛奶	200	南瓜粥	大米	35	牛奶 鸡蛋 罗莎面包			
	鸡蛋	鸡蛋	50	南瓜	南瓜	10				
	罗莎蛋糕	蛋糕	40	鹌鹑蛋	鹌鹑蛋	50				
早点 (10:00)	香蕉	香蕉	60	苹果	苹果	60	梨			
	西芹牛肉末	牛肉	45	糖醋鱼丸	草鱼	55		鱼香肉丝 蜜汁南瓜 紫菜虾皮汤 米饭		
	西芹	西芹	40	草鱼	猪肉	25				
甜椒炒肉	猪肉	10	白油丝瓜	丝瓜	25					
甜椒	甜椒	45	鱼头粉丝汤	粉丝	55					
肉骨蔬菜汤	青菜	20	米饭	大米	50					
米饭	大米	60								
午点 (3:00)	动物饼干	饼干	13	牛奶	牛奶	180	香蕉饼干			
				椰香蛋卷	饼干	20				
晚餐 (4:50)	脆绍面	切面	85	莲白回锅	猪肉	40	烧卖 红薯粥 榨菜(自选)			
		猪肉	45	莲白	莲花白	45				
		青菜	30	胡萝卜玉米丁	胡萝卜	25				
					玉米粒	25				
				上汤娃娃菜	白菜	10				
				米饭	大米	50				
当日 营养 分析	营养	热量(kcal)	蛋白质(g)	钙(mg)	热量(kcal)	蛋白质(g)	钙(mg)	热量(kcal)		
	在园标准	1354	47	697	1354	47	697	1354		
	在园实给	1332	50	413	1534	50	355	1392		
	在园实给%	98%	105%	59%	113%	106%	51%	103%		
	评价	OK!	OK!	少!	多!	OK!	少!	OK!		
一周 日均 营养 分析	营养	热量(kcal)			蛋白质(g)		钙(mg)	维 A	维 B1	
		总量	碳水热	脂肪热	总量	动物类	总量	(ug)	(mg)	
	全日标准	1441	50-65%	25-30%	50	30%	741	471	0.67	
	在园标准	1354	50-65%	25-30%	47	30%	697	442	0.63	
	在园实给	1370	767	409	48	27	381	655	0.67	
	在园实给%	101%	56%	30%	102%	56%	55%	148%	106%	
评价	OK!	OK!	OK!	OK!	OK!	少!	OK!	OK!		
配餐均龄(岁):		4.11	分食比例		平均年龄组:		100%	小小班组:	82%	小班组:

软件开发：深圳网达软件中心 (0755-26546741、www.wangda.com.cn)

(建议幼儿)

【資料 1 - ②】

营养分析表

2017年2月20日 周次: 35

2月22日		星期四 2月23日				星期五 2月24日			
食物	重量	食谱		食物	重量	食谱		食物	重量
牛奶	200	牛奶	牛奶	200	牛奶	牛奶	200	牛奶	200
鸡蛋	50	鹌鹑蛋	鹌鹑蛋	40	鸡蛋	鸡蛋	50	鸡蛋	50
面包	45	甜花卷	面粉	40	黑芝麻包子	面粉	40	面粉	40
			白糖	1		芝麻酱	5		
梨	60	桔子	桔子	60	苹果	苹果	60		
猪肉	55	水饺	面粉	80	粉条炖肉	猪肉	30	猪肉	30
莴苣	30		猪肉	35		粉丝	35	粉丝	35
木耳	10		韭菜	25	西红柿炒鸡蛋	鸡蛋	45	鸡蛋	45
南瓜	35		胡萝卜	5		西红柿	15	西红柿	15
紫菜	15				肉骨山药汤	山药	10	山药	10
大米	65				米饭	大米	50	大米	50
饼干	13	钙奶饼干	饼干	20	苏打饼干	饼干	13		
面粉	45	糖醋排骨	排骨	45	酸菜肉丝面	猪肉	35	猪肉	35
大米	25	什锦烩饭	猪肉	30		切面	75	切面	75
糯米	30		胡萝卜	15		酸菜	20	酸菜	20
红薯	10		豌豆	5		青菜	25	青菜	25
大米	30		玉米粒	10					
榨菜	10		大米	60					

蛋白质(g)	钙(mg)	热量(kcal)	蛋白质(g)	钙(mg)	热量(kcal)	蛋白质(g)	钙(mg)
47	697	1354	47	697	1354	47	697
48	398	1315	49	322	1276	45	418
101%	57%	97%	104%	46%	94%	95%	60%
OK!	少!	OK!	OK!	少!	OK!	OK!	OK!
维 B2	维 C	维 E	维PP	钾	镁	铁	锌
(mg)	(mg)	(mg)	(mg)	(mg)	(mg)	(mg)	(ug)
0.67	67	4.7	8.3	1353	135	12	11
0.63	63	4.4	7.8	1272	127	11	10
0.89	97	7.4	10.1	1172	185	16	7
140%	154%	166%	129%	92%	146%	139%	65%
OK!	OK!	OK!	OK!	OK!	OK!	OK!	少!
92%	中班组: 99%		大班组: 108%		网达软件-电脑配餐		

每天在家饮奶5两,以保证钙摄入量)

配餐人: 张医生

【資料 2】

7 : 50 —— 8 : 50	晨接、早餐、照顾环境、户外观察
8 : 50 —— 10 : 30	蒙氏活动（蒙氏团体活动、区域工作）幼儿自由喝水吃水果
10 : 30 —— 11: 00	早操活动、户外锻炼
11 : 00 —— 11 : 25	自由活动、音乐欣赏、餐前预备
11 : 25 —— 12 : 00	午餐
12 : 00 —— 12 : 10	睡前故事、自由活动
12 : 10 —— 14 : 30	午睡
14 : 30 —— 15: 00	起床、点心、幼儿自由喝水
15: 00 —— 16: 30	小组活动、户外活动、游戏活动
16: 30 —— 16: 45	餐前准备
16: 45 —— 17: 30	晚餐、整理
17: 30 —— 17: 50	分班级离园、家园沟通、维护环境